



伊丹市立幼児教育センター通信

ときめき ひらめき

Vol 19 (令和6年6月)
発行: 伊丹市立幼児教育センター
住所: 伊丹市千僧1-1
電話: 072-780-2488
アドレス: youkyosenta@city.itami.lg.jp

★保護者の気持ちを受け止める～クレーマーは本当にクレーマーなのか～

当幼児教育センターはこの春で5年目を迎え、各園所をはじめ、子育てサークルや保育者養成学校からも訪問や出前講座の依頼を頂くことも増え、子どもを真ん中にしての繋がり広がりをうれしく思います。

ところで、施設訪問の際、よくお困りごととして伺うのが「保護者対応」についてです。確かに、私自身が新卒保育者であった約30年前と現在とでは子どもと保護者を取り巻く環境も変わり、子育て観も多種多様になり、より、保護者との対応に配慮を要するケースが増えていると感じることは確かです。

そこで冒頭の見出しなのですが、これは『保育界』2024. 5月号に掲載されていた 保育園を考える親の会顧問の、普光院 亜紀 氏のコラムの題と、見出しにあった言葉です。

以下に一部を引用し、紹介します。

『 ◆クレーマーは本当にクレーマーなのか◆

(略)しかし、私がこれまで相談を受けてきた保護者には、正直なところ、最初からクレーマーだったという人はいなかったように思います。

最初に、あるいは途中で、その保護者もしくは子どもが心を傷つけられていたり、園の側に不誠実な対応があったりして、それが引き金になって関係がこじれているというケースがとて多いのです。つまり、園や保育者が、なんらかの困難化の原因をつくっているということです。(略)』

『 ◆保護者からの訴えは「心の痛み」◆

保育施設は家庭の支えであり、ライフラインです。保護者や子どもにとって、保育施設の存在はとても大きく、保育施設や保育者を信頼できなくなったとき、保護者はとても苦しい精神状態に追い込まれます。(略)

このとき、保護者が訴えていることの虚実にかかわらず、重要なのは、施設長や保育者が、その話に耳を傾けることだと思います。仮に、「心配のし過ぎ」「保育をわかっていない」「勘違い」(中略)と思うような訴えであっても、話を聞かずに否定したり、軽くあしらうなどの態度は、保護者をさらに深い不信感の沼に突き落とします。(略)』

『 真剣に向き合う姿勢を最初から示せたら、「クレーマー」を生むリスクは少なくなり、双方の傷は軽くて済むと思います。支援者の立場に立った対応が必要です。』

-引用ここまで-

私は何度も読みながらこのコラムを読みました。保護者の心のありようは子育てに大きな影響を与えるもので、私自身、我が子の発達や子育てにとても悩んでいた時に保育士の先生の対応や言葉に救われた経験があります。

様々な背景をもつ保護者と、いかに信頼関係を構築していくかということも、大切な保育者の専門性の一つであると思います。

(幼児教育センター長 岡本 真弓)

どうぞよろしくお願いいたします。

★新任 幼児教育アドバイザー紹介

今年度、新たに幼児教育アドバイザーが着任いたしました。

坂本 奈巳（さかもと なみ：わかばこども園より）



★今年度の幼児教育シンポジウムは、「幼小接続」がテーマです

遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”

今年度も、幼児教育シンポジウムを12月1日(日)に東りいたみホールにて開催します。講師として、鳴門教育大学大学院教授の佐々木晃先生と、大阪総合保育大学教授 瀧川光治先生をお招きしております。是非、ご参加ください。

5歳児から小学校1年生の2年間で指す「架け橋期」は、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことを可能とするための重要な時期です。そのような子どもを育成するために、幼児教育施設は、小学校以降の教育を見通しながら、その基盤となる資質・能力を、自発的な活動としての「遊び」を通して育成していくことが求められています。

そこで幼児教育センターでは、実際の1年生の姿や授業内容を踏まえて、幼児教育の役割を振り返り、5歳児において特に必要な体験、学ばせるべき内容の可視化に取り組みます。

このことに関連して…

先日、文部科学省 HP に「遊びを通した学び」というページがアップされました。https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html

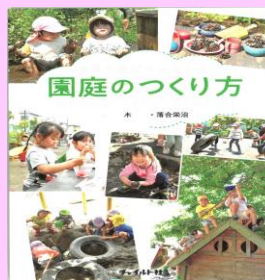
その中に、「遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”

～「やってみたい」から始まる学びの芽(知識・技能や思考力等の基礎、学びに向かう力)の育成～」という動画コンテンツが紹介されています。<https://youtu.be/UxfAl3XWfGo>



幼児教育施設においては、子どもたちに遊びを通して資質・能力を育んでいること、その資質・能力は小学校以降の学習や生活の基盤となっていること等について、子どもたちの遊んでいる姿や幼児教育施設と小学校の先生のインタビューを交えながら解説しています。とても分かりやすく、お勧めです。

★おススメ保育専門書



「多様な遊びが生まれる 園庭のつくり方」

編著 鈴木八郎・落合栄治 発行 チャイルド社

子どもの発達に寄り添う園庭のつくり方 子どもが想像力豊かにいつまでも飽きることなく遊んでいられる園庭とはどのような園庭なのか。「自然」「創造」「運動」「対話」という4つの視点からこどもの要求を満たす園庭の環境について考えています。

金曜日の夜間開館に についてお知らせ

今年度から、原則第2・4金曜を、
夜9時までの開館日とします。

随時、電話や来所での相談も受
付けております。

どうぞよろしくお願いいたします。